

京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども

京都嵯峨学園教育目標

地域に学び、豊かな人間力を育む小中一貫教育を目指す



学校教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、「嵯峨の心」の育成を目指す
嵯峨の心 ＝ 持続可能な社会を創る力

目指す生徒像

- ① 自ら学び続け、考え抜く力をもつ生徒
- ② 認め合い、励まし合い、支え合うことができる生徒
- ③ 何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒
- ④ 恵まれた環境のなかで暮らすことに感謝と誇りをもち、地域に貢献できる生徒

目指す教職員像

教育者としての職責を自覚し、専門性を高める

- ① ひとりひとりの生徒を大切にし、熱い心をもって妥協することなく生徒と関わり続ける教職員であることを目指す。
- ② 目指す生徒像の実現のために、自らもキャリアアップのために努力し続ける教職員であることを目指す。
- ③ 教育目標を理解・共有し、チーム（組織）の一員として行動する教職員であることを目指す。

目指す学校像

信頼と自負の獲得

- ① 生徒が自慢できる学校（嵯峨中生であることに喜びと誇りをもてる学校）
- ② 保護者がわが子を行かせたいと思える学校（安心・信頼・満足を実現する学校）
- ③ 地域が共にありたいと思える学校（学校はまち、まちは学校）
- ④ 教職員が誇りをもてる学校（わが子を通わせたいと思える学校）

学校経営方針

よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る

- ① 新学習指導要領への理解を深め、教育活動全般において必要とされる資質・能力の確実な育成を図る。
- ② 学びと社会のつながりを重視し、地域の人的・物的教育資源を有効に活用した「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ③ 質の高い教育活動の実践を目指し、教職員のプロ意識の向上を図るとともに、働き方改革を推進する。

平成 30 年度 重点目標と詳細

① 新学習指導要領に対応した教育課程の編成と実施（授業改善とカリキュラムマネジメント）

- 家庭での自学自習の習慣化（課題の質的向上とエスノートの活用）
- アウトプットの重視（自身の考えを多様な方法で表現させる活動）
- 諸調査結果を活かした授業の改善
- 妥当性、信頼性に基づいた学習評価の実施（評価ソフトの活用，説明責任の実行）
- 課題解決に向けた補充学習の改善と実施
- 困りのある生徒の実態に応じた合理的配慮の実施
- 3学期制の実施（5回の定期テスト，各学期末の成績提示）
- 「特別の教科 道徳」の実践
 - ・H30年度 重点項目 B 主として人との関わりに関すること [友情，信頼]
 - C 主として集団や社会との関わりに関すること [遵法精神，公德心]
- 学校評価の再検討

② 小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実【小中連携の推進】

- 地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）の推進
- 9年間を見通した学習指導計画の作成（小学校の学習内容の理解と系統性の検討）
- 小中一貫教育推進体制の構築
- 京都嵯峨学園評価の再検討

③ 創立 50 周年記念事業の実施【地域との信頼関係の深化】

- 記念誌・記念品の作成
- 記念式典，記念祝賀会の開催 平成 30 年 11 月 2 日（金）
- 記念イベントの開催（各行事との連携）
- 校内設備の拡充

平成 30 年度 研究指定

- 新学習指導要領の実施に向けた実践研究事業における実践研究校
 - C 新学習指導要領の趣旨の実現を図るための個別の実践研究
 - オ 児童生徒・教員による授業自己評価表を用いた授業づくり（授業改善）実践
- 平成 30 年度オリンピック・パラリンピック教育実践研究校（パナソニック）

